

トーマス・グラード教授特別講演会

主催：公益社団法人 日本地すべり学会
新潟大学災害・復興科学研究所

ヨーロッパアルプス周辺地域をはじめとする各地の各種斜面変動現象、およびそれらのリスク評価等に詳しいウィーン大学のThomas Glade先生が今秋に来日されるのに合わせ、下記のとおり東京都内で特別講演会を開催いたします。

オーストリアほか欧州地域の最近の自然災害研究・技術動向などを含めた興味深いお話を聴くことができる貴重な機会ですので、ふるってご参加ください。

●日時： 令和元年9月14日(土)14時00分～16時00分 (受付：13時30分～)

●場所： TKP田町カンファレンスセンター
カンファレンスルームB1A (地下1階)
<https://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/cc-tamachi/>
(※三田駅／田町駅から徒歩5分)

●題目： 地すべり・斜面変動のハザードとリスク評価

講師： Thomas Glade教授(ウィーン大学地理・地域研究学部)

●参加費： 無料

●定員： 50名(上限に達した場合は受付を締め切る場合があります)

●参加申込： ご氏名・ご所属をメール(件名：講演会)でお送りください。
送信先： account@landslide-soc.org



講師略歴:

1994年 ルプレヒト・カール大学ハイデルベルク(ハイデルベルク大学, ドイツ)地理学部 修了
地理学のDiplomaを取得
1997年 ヴィクトリア大学ウェリントン(ニュージーランド)地理・環境・地球科学大学院 修了
物理地理学の博士号(PhD)を取得
2004年 ライン・フリートリヒ・ヴィルヘルム大学ボン(ボン大学, ドイツ)地理学部
地理学の教授資格(Habilitation)を取得
2006年 ウィーン大学地理・地域研究学部 地形システム・リスク研究グループ 教授
これまでにヨーロッパの数々の学会要職を歴任。地形学・物理地理学を基礎として、以下の研究に取り組んでいます。

地形学的研究として、①斜面災害発生空間的・時間的分布のモデリング、② 斜面災害を引き起こす閾値、③ 斜面災害のトリガー(降雨、地震)の調査とシミュレーションなど。

防減災に関する研究として、① 斜面災害への政策対応、② 斜面災害による経済的損害、③ 斜面災害リスクの進化、④自然リスクのマルチプロセスモデリング、⑤早期警報システムなど。

また、300編以上の研究論文があり、以下の書籍も編集・執筆しています。

Naturgefahren, wbg academic, 2020年出版予定

Naturrisiken und Sozialkatastrophen, Spektrum Akademischer Verlag, 2007年

Landslide Hazard and Risk, Wiley, 2005年

The Use of Historical Data in Natural Hazard Assessments, Springer, 2001年など。

講演抄録:

地すべり等の斜面災害は、私たちの環境と社会に重大な脅威をもたらします。そのため、多くの分野、例えば技術者、地質学者、地形学者ばかりでなく、空間利用計画者も斜面災害を扱っています。モニタリング、修復工事、早期警戒システム、長期的な景観の進化など、関連する多くの業務があります。最近では、個別の斜面変動現象の潜在的な社会影響のみならず、広範囲の分布・空間情報としても定量的に評価できるようになりました。この講演では、さまざまな研究事例を紹介し、いくつかの課題を取り上げます。斜面災害にかかわる技術者・研究者は、特に気候変動に関係する課題を直視する必要があります。また、人間活動の結果として生じる可能性のある環境変化についても取り上げます。

会場アクセス: TKP田町カンファレンスセンター 地下1階 B1A室(東京都港区芝5-29-14 田町日エビル)
JR田町駅三田口(西口) 徒歩5分 都営三田線/浅草線 三田駅 A3出口 徒歩5分

